



美濃田 晶子さん
Minoda Akiko

〔上早川一区〕

みのだ あきこ(中央) / 龍の舞・龍神太鼓保存会。子どもたちへの指導にも加わる。春～秋季の毎週水曜日午後8時から龍野小体育館で活動中。

龍神太鼓の鼓動を次の世代へ 郷土芸能がつなぐ地域の絆

「和太鼓は、音と振動が心地良く響いて大好きです。みんなとバチをそろえて演奏すると、太鼓の鼓動を体全体で感じます」と語るのは、「龍の舞・龍神太鼓保存会」の美濃田晶子さん(上早川一区)。

同保存会(宮澄安一会長30人)は、龍野に伝わる龍の伝説を基に創作された太鼓の演奏を郷土芸能として後世に残すために結成。現在は幼児から60歳代までが所属し、中でも女性の演奏が活発。龍野夏

祭りなどの地域行事だけでなく、町内外のイベントにも出演し、勇猛な響きを披露する。美濃田さんが龍神太鼓と出会ったのは約20年前。和太鼓の力強さに触れるうちに興味がわき、思い切った練習に参加した。「和太鼓を本格的に練習するのは初めてで、最初は子どもたちに混じって打ち方の基本を学びました。テンポのはやい早打ちができるよ

うになったときは、うれしかったですね」と振り返る。現在、2児の母でもある美濃田さん。子育てと保存会の活動を両立し、「ストレスは、太鼓をたたくことで発散しています」と笑顔で明かす。

「練習の中で多くのことを教えていただいたので、それを次の世代につなげる手伝いをしなければ」という思いから、6歳になった長女の練習参加をきっかけに、子どもたちの指導にも取り組むようになった。

「少し前まで力任せにたたきただけだった子が、練習を重ねて強弱をつけた演奏ができています。子どもたちの成長を見れるのも楽しいですね。将来、この子たちが龍神太鼓を引き継いでくれれば」と地域の絆を託す思いがあふれる。「和太鼓に興味がある方はぜひ練習に来てください。親子で楽しむこともできますよ」と美濃田さん。龍野小体育館には、力強い和太鼓の鼓動と、地域の人たちの指導をおおぐ子どもたちのにぎやかな演奏が響き渡る。

広報 こうさ

2018年(平成30年) 8月号
通巻589号